

英国で評価される地域劇場のあり方について ～シェフィールドシアター～

(公財) さいたま市文化振興事業団 事業課長補佐 神保富美子

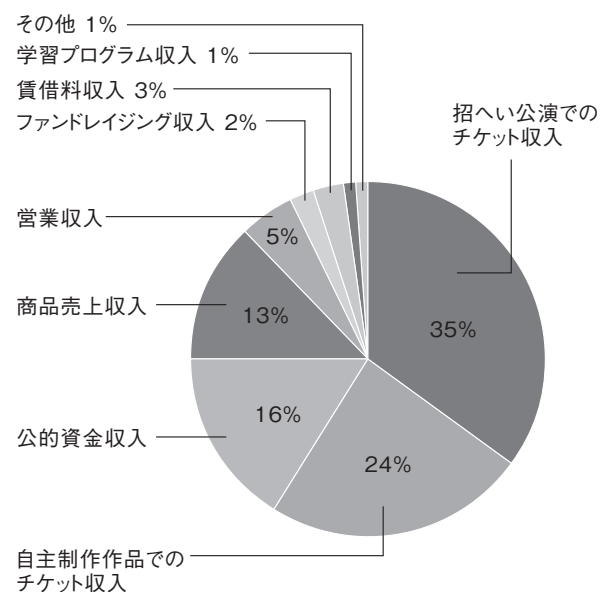
1. 公的資金16%で劇場運営

シェフィールドシアター（以下、本シアター）は、英国中部のサウスヨークシャー州の工業都市であるシェフィールド市に立地している。本シアターは、19世紀に建てられた伝統的なプロセニウム様式のライシジョン劇場と、20世紀に建てられた近代的な建物の中にクルーシブル劇場及びスタジオ劇場を備えている。ライシジョン劇場では、ミュージカル、バレエ、オペラなどの招へい公演、特にウエストエンドの商業演劇の上演を主に行っている。クルーシブル劇場では、本シアターによる創作公演を行っている。スタジオ劇場では、実験的な作品制作を試みている。

〔図1〕は、本シアターの2013年～2014年シーズンにおける収入内訳である。これによると、招へい公演（ライシジョン劇場）によるチケット収入が35%、自主制作作品（クルーシブル、スタジオ劇場）での公演におけるチケット収入が全体の24%であり、収入全体の6割近くをチケット収入が占めている。また、公的資金収入が16%で、これは、シェフィールドシティカウンスルとアーツ・カウンスル・イングランドからの補助金である。

本シアター館長兼芸術総監督ダニエル・ベイツ氏によると、英国の公共劇場の収入における公的資金の割合は40%から50%が普通であるという。つまり、本

〔図1〕 シェフィールドシアター収入内訳（1,150万ポンド）



シアターは少ない公的資金で劇場運営を行っている。

しかし、本シアターは、少ない公的資金でありながらも素晴らしい実績を上げている。特色のある3つのシアターを有効活用し、さまざまな文化芸術作品を年間793公演開催している。年間鑑賞者は、2010年～2011年は約35万人、2011年～2012年は約35万6,000人、2012年～2013年は約43万9,000人であり、2013年～2014年シーズン以降も40万人以上を維持

している。また、鑑賞者が劇場以外に活用するレストランや駐車場、ホテル、鉄道や観光場所などの売上などによる地域経済効果は、3,600万ポンドに達している。さらに、2013年、2014年とザ・ステージアワードによる地域劇場大賞を2回受賞しており、地域劇場としての英国での評価も高い。

このように、本シアターは少ない公的資金でありながらも、地域劇場としての価値を高めながら良質な劇場運営を可能としている。では、どのような運営方法が現状のような成果につながるのか、以下に記述する。

2. 良質な劇場運営

(1) ミッションと施策の確立

本シアターは、地域劇場としての運営に関わるミッションを「ライブアートによる人生の転換を信じ、上質なプログラムによる地域住民や国民全体の文化意識を喚起する」と定めている。

また、ミッションにのっとり「市や地域にインパクトを与える」「素晴らしい作品を届ける」「鑑賞者を育成する」「劇場としてのさらなる持続性を確立する」という2012年から2015年までの具体的な4つの施策を定め、これに基づき劇場運営をしている。

(2) 自主制作作品と学習プログラム

① 自主制作作品

本シアターでは、自主制作作品も手掛けており、毎年13作品ほど制作している。その中でも特筆すべきは、シェフィールドピープルズシアター（市民劇団）である。12歳以上なら演劇経験の有無は関係なく、誰でも参加できるため、現在12歳から86歳までの約100名のメンバーが所属している。演劇キャリアを積みたい若者や、高齢者の人生の楽しみなど参加者の動機もさまざまであるが、皆演劇が好きという共通の思いがある。参加費は無料であり、オーディションは劇場内だけでなく、地域の会場や学校でも行われる。年度毎に参加者を募集するが、最近では60%がリピーターとなり地域に定着している。

② 学習プログラム

シェフィールドピープルズシアターはラーニング部が担当しているが、この部署の使命は「人々が劇場とつながる機会をつくる」ことであり、劇場をより身近に感じられるような学習プログラムに取り組んでいる。以下に主なプログラムを記述する。

●ワークショップ…本シアターにおける自主制作作品をより身近に感じることを目的としている。プロのアーティストが技術やデザイン、演技等について指導する。12歳以上ならば参加可能。なお、先生の協力を得て、学校においても自主制作作品のワークショップを行っている。

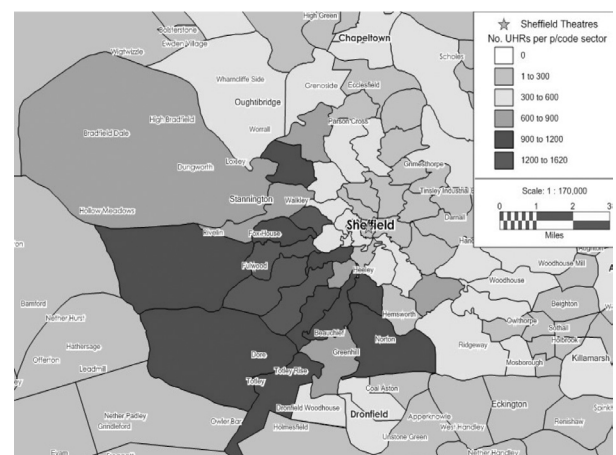
●サマースクール…2週間かけて劇場の仕事を体験する。9歳から参加可能であり、これまでの参加者の最高年齢は75歳。プロの演出家による授業を受けるほか、役者、照明、音響、舞台監督、制作のスキルを体験する。劇作家のサマースクールにも着手した。スクール最後はスタジオシアターで新作を上演するが、その際には、参加者が実際に照明や音響などを担当する。

●職業体験…主に14歳から17歳までの若者が参加可能。毎年90人から120人くらいの希望者がいるが、面接による選考を経て、約25人を受け入れる。期間は1週間で、劇場の各部署での仕事を知ることができる。

(3) 綿密な統計分析

本シアターでは、過去4年間における次のデータから鑑賞者の動向を分析している。①チケット売上枚

【図2】居住エリアによる購入枚数の分布図



数／②売上高／③チケットの平均単価／④通常価格での購入枚数率／⑤割引価格での購入枚数率／⑥招待チケットの率／⑦チケット購入者の居住エリア地図／⑧居住エリアによる購入枚数の分布図〔図2〕である。

これまでの具体的な分析結果では、通常価格での購入率と割引価格での購入率を4年間で比較すると、通常価格での購入者が増えたこと、招待券の率が以前より減り、現在ではほぼ0に近くなったこと等が明らかになった。

また、購入枚数によって地域ごとに色分けしたシェフィールド市近隣の地図から、チケット購入枚数の多い地域は高収入の住民の地域と一致していたり、団体購入者が劇場近隣に多いことなどが読み取れた。

このような結果から、今後のチケット価格、宣伝エリアのターゲットとチケット販売方法などについての方策を導きだし、それを具体的なサービスに反映することで、収入全体の約6割を占めるチケット収入に結びつけている。

(4) 誰でも来られるチケットサービス

先に述べた統計の結果、チケットの平均単価は22.57ポンドであるが、例えば、ヨークシャー地方の平均は14.46ポンドであり、全国平均は22.01ポンドであることから、本シアターの平均単価が高いことが明らかとなった。これにより、高いお金を払ってでも本シアターの公演を鑑賞する顧客がいることがわかる。しかし、工業都市であるシェフィールドエリアは貧困層の多い都市であること、地域の未来を考慮すると青少年が文化芸術に親しむ環境づくりが求められることなどから、富裕層だけでなく、貧困層でもどんな人達でも劇場に来られるようなチケット割引サービスを行っている。

例えば、公演当日の早朝に残席があれば格安販売を行うほか、時間帯によって同公演でもチケット価格を変えたり、団体割引や、貧困層を対象にした特別割引、学生のための割引制度などを設けている。特に、「Live for 5」は16歳から26歳までの青少年が2公演まで5ポンドで見ることができる格安チケットで

あるが、これにより若者の鑑賞者の開発・増加を目指している。

(5) アクセシビリティ

本シアターに来たいと思う人全てに対応できるように、障がい者のためのサービスも充実している。例えば、視覚障がい者や聴覚障がい者のための音声描写公演、字幕公演、手話公演やタッチツアー、自閉症や学習障がい者がリラックスして見られる公演などを定期的に用意している。また、盲導犬用の座席や車椅子用の座席も特別に確保している。他施設と違う取組としては盲導犬に関するサービスである。ウェブサイトによると、盲導犬のために公演前後に水を用意することや、事前に連絡があれば、公演中盲導犬の世話もすると詳細に記載しており、気軽に来てもらえるような呼びかけが丁寧である。

(6) ファンドレイジング（資金調達）

ファンドレイジングの専門部署があり、スタッフ構成については、マネージャー（管理者）、個人担当、法人担当、実習生の4名で構成される。賛助会員、個人寄付、募金、企業協賛、助成金取得などの取組を行い、2013年～2014年シーズンは合計で21万7,732ポンドの収入を増やすことができた。

(7) 情報発信

本シアターでは、2012年、2013年とアニュアルレポートを作成し、シアターのウェブサイトでも見られるように発信している。レポートには、シアターのミッション、地域経済効果、自主制作作品の成果、収支状況、年間鑑賞者数などのほか、具体的な活動の成果や地域劇場としての本シアターの役割なども記載している。

また、本シアターの活動状況を地域や全国にわかりやすく伝える手法として動画を制作し、シアターのウェブサイトで見られるようにするほか、誰でも見られるようにYouTubeでも発信している。YouTube上には自主制作作品に関する動画のほか、「Where shall we go tonight? (今夜はどこに行く?)」という名称で、シアターにおける5年間の活動状況が理解できる2分半

の動画なども配信している。その他、ライシユン劇場の改修状況の動画などもある。このような動画は短時間でシアターを理解できる重要なツールとなっており、例えば国や市の助成金、企業や個人からの寄付金を依頼する際にも活用されている。

3. まとめ

本シアターは(1) ミッションや施策の確立、(2) 優良な自主制作作品と劇場を身近にするための学習プログラム、(3) 統計データによる鑑賞者動向分析、(4) 誰もが来られるチケットサービス、(5) アクセシビリティ、(6) ファンドレイジング、(7) 情報発信に真摯に取り組むことで、既述した実績に結びついたと言える。しかし、それ以外にも本シアター運営の根底にある重要な二つの要素がある。一つは情報共有の徹底である。それは、ミッションのような劇場全体のものから、各部署の取組に関する詳細なことまで、全員が情報共有できるように心がけている。例えば、学習プログラムの担当者は、担当者以外の劇場スタッフ全員が学習プログラムを行う使命をもつことを念頭に活動している。もう一つは情熱である。「劇場で地域を活性化したい」「文化芸術の好きな青少年を増やしたい」「素晴らしい芸術作品を鑑賞者に届けたい」などの強い思いが劇場運営の原動力となっている。

少子化、高齢化、非正規雇用者の拡大、日本以外のアジア地域の経済成長などにより、今後日本において税収不足やそれに伴う劇場への公的資金の削減は予測できる。しかし、本シアターのように、少ない公的資金でも良質な劇場運営は可能である。そこで、既述した本シアターの取組を参考に、自分たちの劇場に置き換えた場合現状において何が不足しているかを検証することから始める必要がある。

参考文献

シェフィールドシアター年間報告書 2012
(Sheffield Theatres Annual Review 2012)
シェフィールドシアター年間報告書 2013
(Sheffield Theatres Annual Review 2013)
シェフィールドシアターホームページ (2015 年 11 月アクセス)
<https://www.sheffieldtheatres.co.uk/>

施設概要

シェフィールドシアター



- 名称 ————— Sheffield Theatres
- 所在地 ————— 55 Norfolk Street
Sheffield S1 1DA
- 設立年 ————— ライシユン劇場:1897年建設・客席数1068、クルーシブル劇場:1971年開館・客席数980、スタジオ劇場:1971年開館・客席数400(可動式)、その他会議室、カフェ、バーなど。
- 年間予算 ————— 1,150万ポンド(2014年実績)
- 年間事業数 ————— 793公演(2012年実績)
- URL ————— <https://www.sheffieldtheatres.co.uk/>